

(学年) 3 学年, (教科・科目) 音楽科

協働学習

(単元) 箏の魅力に迫る

(本時のねらい)

お互いの音を聴き合いながら、旋律を意識して曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付ける。

(ICT 活用方法)

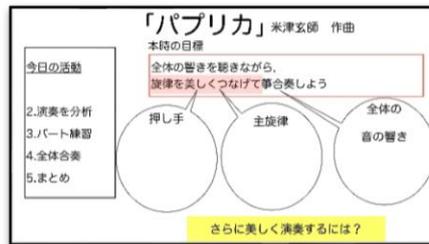
全体の音の響き、奏法や姿勢、主旋律のつながりについて考えさせるために、一人一台端末を用いて録音や録画をして確認させる。聴き取った内容を意見交換し、共有させる。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	I C T活用方法
導入 10分	・本時の目標を確認し、課題を考える。	・前時の録音や写真を見て、全体の音の響き、奏法や姿勢、主旋律のつながりについて考えさせ、ワークシートに記入させる。 ・聴き取った内容を意見交換し、共有させる。	・プロジェクターを用いて、目標や学習内容を提示する。
展開 30分	・パートごとに奏法等を確認し、練習する。  ・本時の学習を生かして、全曲合奏をする。	・1 箏パート、2 箏パートそれぞれの主旋律の担当箇所を確認する。 ・「押し手」をリレー練習し、音程を確認させる。 ・全体で共有した意見を取り入れながら練習しているか、それらを表現するにはどうすればいいのかを、指導、助言する。 ・本時で学習した内容を、演奏に生かすように助言する。  ・ワークシートを用いて、本時の課題を項目ごとに振り返る。	・一人一台端末で録音する。  ・一人一台端末の再生機能を用いて、録音を確認する。

まとめ 10分	・本時のまとめを聞く	・より調和のとれた演奏をするためにはどのようなことが必要になるのかを助言し、次時の学習内容を知らせる。	・プロジェクターを用いて、ワークシート内容を提示する。 ・次時の学習内容を提示する。
------------	------------	---	---

(授業の様子)



(生徒の反応と課題，改善を要する点)

板書がわかりやすく、視覚的に見やすいので、プロジェクターを用いて自作のプレゼンテーション資料を提示することは、大変効率的である。板書が効率よく行えるので、練習時間が増え、技能が向上した。

一人一台端末を利用し、録音や録画をすることで、生徒は演奏を客観的に振り返ることができる。さらに、ワークシートでの振り返りでも、他者評価や自己評価を書く際にも、根拠をもって記入できるようになってきた。

音楽室のネットワーク環境が整っておらず、教育プラットフォームなどが使えない現状がある。環境が整うことを期待し、ICTを活用した教育活動が充実するよう研究していきたい。